

# 鳥取県立博物館蔵『富士の人穴草子』 翻刻と解題

原 豊 二  
(米子工業高等専門学校)

## 摘 要

鳥取県立博物館蔵(中島家旧蔵)『富士の人穴草子』は、慶長七年(一六〇二年)に書写されたものであり、この作品に関わる最古写本の一つである。本稿は、新出の本写本を全文翻刻し、それに解題を付したものである。

キーワード：富士の人穴草子、鳥取県立博物館、中島家、中世小説、御伽草子

## 翻刻

- 1 そもく正治三年卯月三日頼家のかうの殿
  - 2 わたの平太たね長をめて御ちやうありける
  - 3 はいかにうけたまはり候へふしに人あな有とは
  - 4 きけと頼家はいまたみすいかなるふしきや
  - 5 有人てよくくみてまひれとおほせくた■(破レ一字欠)
  - 6 れけり平太かしこまつて申ける■てんを(磨滅一字欠)
  - 7 かくるつはさ地をはしるけた物などをたて
  - 8 まいらせよとの御ちやうにて候は、いとやすき
  - 9 御事にて候へ共是はいか、候へきた、しおほせ
- 10 をそむき申せは天のおそれなり二となき命を(一才)
  - 1 君にまいらせ申てと御まへをまかり立て平太
  - 2 わおちのよしもりのかたへ上りていとまをかふ
  - 3 ようはたねなかこそきたひふしきの御ちやう
  - 4 をかふむりてと申よしもり何事そとたつね
  - 5 給ふふしの人あなさかしてまいらせよとの御
  - 6 ちやうにて候是をそむき申せは天のおそ■(破レ一字欠)
  - 7 なり二となき命を君にまいらせん申て此
  - 8 所へゆくよりもしせん事は一ちやうなりしやは
  - 9 のなこりはた、いまはかりなりよしもりの御め

10 にかゝらん事も今をかきりと申かならず御（1ウ）

（2オ）半丁すべて欠落

- 1 のつかにすかうとうかねの刀をおつこうて
- 2 さしこかねつくりのたい松十六てもたせ七日
- 3 と申にまひらすはしゝてありとおほしめし候へ
- 4 とて岩屋の中へそ入にけるしよ人是を
- 5 見弓取のならひなどあはれなる事はあらし
- 6 みな人あはれみけり岩屋の中へ一ちやうはかり
- 7 行てみれはくちにはしゆをさしたるやうなる
- 8 おそろしとおもへ共おほせなれば力をよはす
- 9 とひこへく道五てうはかり行て見れはな
- 10 まくさき風ふきておそろしと思ふはかり（2ウ）
- 1 なりさてそはを見れば十七八の女はう十二ひと
- 2 糸をかさねくれなひのちしをのはかまをめてして
- 3 卅二さうをくそくしひすいのかんさしはこきす
- 4 みをなかしたるにことならずしろかねのはたあ
- 5 しにこかねのひを御てにもつてはたをおつてま
- 6 しまするかれうひんの御声にて何物なれば
- 7 身つからをみたてまつるそとの給へば平太かし
- 8 こまつて申けるは是はかまくら殿の御つかひにみ
- 9 うらの一もんわたの平太たねなかと申もの
- 10 にて候と申ければ是をきこしめしたれか（3オ）

- 1 つかひにてもあれ身つかからかまへをはとをす
- 2 へからすもしとをる物ならば命をとらんと
- 3 おほせければ平太おそろしとおもひ立かへり
- 4 けり女はうの給ふやうは平太うけ給れ日本
- 5 をもちたればとてしれたる事おはぬ事也
- 6 なんちはつかいなれば身つからをみ奉る
- 7 間しらするなりわたのはことし十八になると
- 8 おほゆる卅一といわんなつの比しなの、国の
- 9 住人いつみかをこさんするむほんゆへにからめ
- 10 とられてあふしうへなかさされてきられんする也（3ウ）
- 1 はやくかへれとおほせければ是をきゝて心
- 2 ほそく思ひ岩屋の中を立出けるかうの殿の
- 3 御まへに上り岩屋のふしきを一一にかたり申
- 4 なりかうの殿きこしめしおなしくは岩屋の
- 5 おくを見ぬ事こそ心にかゝりけれたれにても
- 6 あれ岩屋のおく見てまいらん物に四百町の
- 7 しよりやうのさふらひとも又かたくまでまた、
- 8 にくしとておもふらん力およはす我人もよく又
- 9 わふけるならひなりまつすきをこふる事も
- 10 おもふゆへ也二となき命をすつる事なり（4オ）
- 1 ければこせをはよくとふらいてくれよと
- 2 て出立けりにたんか其日のしやうそくには

- 3 しろきかたひらのわきふかくとかせてせひ
- 4 こうの大きくちのみのこくなるをきかちんのよろ
- 5 いひた、れの袂をむすんでかたにかけ糸ほし
- 6 かけをりやうとしめさためく、りをつよくゆひ
- 7 てまうふさかつくりたる四尺五寸有り
- 8 けるをかめしりにさけはきしろかねの
- 9 さやまきにくれなゐのあふきをさしそへ
- 10 てかまくら殿御まへにくとう三みみらすけもり (4ウ)
- 1 と申けるをあひくしてたい松十五ちやうもたせ
- 2 て七日と申さんに出すはし、て有りとおほし
- 3 めせとて岩屋の内へつと入五町はかり
- 4 行てみれとも何もなしはたおり給ふ女
- 5 はうもおはしまさす是を行すき太刀を
- 6 ぬき四方をうちふりみれ共何もなし又
- 7 二町はかり行て見れは日本のことく月日
- 8 あらはれてあな松原へ出給ふつちの色を
- 9 みれはあほくき色あかくしろくくろく
- 10 五しきの色あらはれたり又川なかれたり (5オ)
- 1 是をた、いま人こゑたるかと思えてうら
- 2 なしをぬきおきたり是をとひこへてみ
- 3 れは八むねつくりのひはたふきの御所有り
- 4 ならへて九つつくられたりもんの内をた
- 5 ち入みれはのきのした水おつるをとちやう

- 6 くほたいけしゆしやうとおちさゑつり松の
- 7 えよりおつる露はさほくせほくとして
- 8 ひわをひくにごとならす風のふくおとはきん
- 9 をしらむるかことしか、るおもしろき事を
- 10 きく時はしやうしのねふりもさめぬへしさて (5ウ)
- 1 内へ立入みれはす、の玉をつらねてかけられ
- 2 たり夜るひるとさためつほめるを夜ると
- 3 しるなりた、いま人ひきたりとみへてしろかね
- 4 のことをたておかれたり一めんのひわはぬし
- 5 をうらむるとおほゑてかへにむかつて立
- 6 にけりてんちやうはあかちのにしきにてはり
- 7 柱をあをちのにしきときんくをもつて
- 8 まきくたしからのか、みのうらをとをしてたか
- 9 きにはひつしとかけられたりか、みともに
- 10 あたりてりやうとひらく声はきおんしやう (6オ)
- 1 しやのかねの声に事ならすきくわ心しす
- 2 み渡りおもしろき事心ことはもおよはすこく
- 3 らくちやうともいかてこれにはまさるべき
- 4 にたん是を出てうしとらのかたへ行てみ
- 5 れは道の草木事おひた、し又きたの
- 6 かたをみれはいけ有りいけの中に嶋有り
- 7 嶋の上にゑんふたこんといふこがねの御所有り
- 8 まへにはし有りかのはしをみれは九十

- 9 九けんにかけられたりみなみはるりをのへ  
 10 たるにことならずはしの間に九十九のきん（6ウ）
- 1 のす、をかけられたり一はんのす、のおとは南無  
 2 めう法れんけとさへつりはしめければ九  
 3 十九のす、かみななけきやうの一ふ八くわんの  
 4 もんしの数を一字もおとさすさへつりけり  
 5 九十九はんにあたりたるす、か南無十らせつ  
 6 女たもんでんわうそうちやうくわふもく此御  
 7 きやうのくりきによつて九本のちやうとへ取  
 8 給へくわんにしくとくふきうを一さいかとふよ  
 9 しゆしやうかいくしやうふつたうとさへつりけり  
 10 又いけの中にせんよう八ようのれんけあら（7オ）
- 1 われたり水の中に色五しきにへんす  
 2 にたん是をみておもしろき所かなと嶋にち  
 3 かつき御所のひかしのにわをみ申せはしろかね  
 4 をのへしきみなみはるりをのへてしく西は  
 5 はてかいといふ玉をのへなしられたりかゝるおも  
 6 しろき所をおかみ申せしに御所の内よりから  
 7 ひたるこゑにて何物なれば身からすませた  
 8 まふ所へさうなくきたるそやとて出給ふ御すか  
 9 たをみればくちにはしゆをさしたるやうなるか  
 10 まなこ六百八のつのをふりたて其たけ共（7ウ）

- 1 四ちやうはかりの大しやあらはれ出給ふによりふ  
 2 くいきは百ちやうにあまりくれなゐの御したを  
 3 出しふりたまへはみのけもよたちきもこゝろも  
 4 うせはてけりさても大しやの給ふやうはいかに  
 5 にたんうけ給りみつからをは何物とやおもふ  
 6 らんふしあさまの大ほさつとは我が事なり  
 7 いかになんちより家のかうの殿つかいとて  
 8 我かすかたを見る事はよりのゑかうんの  
 9 きはめなりとおほえたり身つからか六こん  
 10 の内は夜る三とひる三となりいかに（8オ）
- 1 うけたまはれなんちかもちたるつる  
 2 きをまいらせよ六こんにをさめんと給へ  
 3 はにたんうけ給り四尺八寸の太刀をぬき  
 4 て大ほさつにたてまつるとらせたまはつて  
 5 やかてさかさまにおさめ給ふをなしくは  
 6 かたなをもまいらせよとおほせそれは  
 7 うけたまはるとてまいらせければおなしく  
 8 おさめ給ふ大ほさつおほせけるはうれし  
 9 きかなや此つるきおさめてあるあひた  
 10 五すい三ねつのくるしみしやうしのねふり（8ウ）
- 1 もさめぬへしされはかゝるつるきの  
 2 よろこひに六道ししやうをみせんする  
 3 なりとてうちいらせ給ひて大しやの

- 4 すかたをひきかへて十六七のとうしとなつて出給ふまことやらん日本の物はちこく
- 5 こくらくといゑ共めにみることなしといふなり
- 6 六道をみせてかへさんとてにたんをわきに
- 7 はさみて六道へこそおもむけいかに二たん
- 8 うけ給けれちこくふきやうには末代一には
- 9 はこねのこんけん二番にはいつのこんけん(9オ)

- 1 たい三はんにはしら山のこんけんたい四
- 2 はんには身つからなりたい五はんにはみ
- 3 しまの大明神たい六はんにはゑつ中の
- 4 たてのこんけんはむけんちこくのふきやう也
- 5 さて百廿六ちこくのふきやうは此六しんなり
- 6 みなくわんおんのすいしゆくなりまつ
- 7 さいのかわらのふせひみせんとてみせられ
- 8 けりわらんへ共又二三のいとけなき物
- 9 ともはしめとしてかうしやかかりなく
- 10 しをいたりち、よ母よといひててを取(9ウ)
- 1 くみてかなしみけりにたん是をみてあれは
- 2 いかなる物にて候そと申せは大ほさつき
- 3 こしめしあれこれさいのかわらといふ所也
- 4 あのおさない物ともはしやはにておやのたい
- 5 ないにやとり九月の間しんくをする事
- 6 かきりなしそのはうおんをおくらすして

- 7 むなしくなりたる物共あのやうにくをしるなりしはらくみよとの給ひもはてす北
- 8 のかたよりほのおひた、しくもへ出て
- 9 いしもかわらもみなほのをとなりて(10オ)

- 1 やけにけりさておさあひ物共是をみ
- 2 てのかれんとすれとものかれへきかたもなし
- 3 ほのをにやけてはうこつとなつてうせ
- 4 にけりや、久敷ありてあはうらせつ
- 5 あつまりてくろかねのつへをもつてくわつ
- 6 くわつとうてはもとのことくによみかへり
- 7 おさあひ物となりけり又にしのかたを
- 8 とをりてみれば下にはさんすのかわとて
- 9 あり此かわのふかき事もひろき事も六万
- 10 ゆしゆんなり此かわのはたにさんすくわの(10ウ)

- 1 うはとてたち給ふよろつの人のきる物を
- 2 はきとりてひらん木のゑたにかけられける
- 3 此うはは大日によらいのけしんなり是を
- 4 とりて山ろにつけ給ふいかにたんうけ
- 5 たまはれ是こそしやはの人のき日をとふ
- 6 らへははかのしゆこつをこくそつきたりて山
- 7 ろをへたて、あとにあるしんはつよはる
- 8 やうは今日しやはに日をとふらへはかのしゆ
- 9 こつをこくそつきたりて山路をへた、て

10 あとにあるしんはつによはるやうは今日（11才）

1 しやはにき日をとふらふなりくしやう

2 しん申て八千おつこうのつみをめつせと

3 いひければたいしゆに申てせんのおたに

4 つけられ申て九本のちやうとへ生るゝ

5 なり又そはをみれはあるさい人おもき

6 いしをつなけてこくそつ共さんくにしもつ

7 をもつてくろかねの岩の上をのほれくとせ

8 むる事数しらす大ほさつの給ふやう

9 あれこそしやはにて馬のいきをしらす

10 しておもき物をつけてせめからめしあき（11ウ）

1 人ともか今のあはうらせつとなつて返つて

2 かやうにする事一まん八せんさいか間かくの

3 ことくのくをうけて物いわぬ物こうふかきそ

4 との給ひける又そはをみ給へはつるきの

5 山ありさい人共をあはうらせつするきの

6 さきにさしてつらぬいてせめらるゝ所も

7 ありしもつともつてあてらるゝちるちを

8 物にたとふれはちしほにそむるくれなひ

9 のさきちらすに事ならす是はいかにと申

10 せはあれこそおやのめいをそむき所に（12才）

1 すみたるかをやにこいしとおもはれてある

2 物かあのくるしみをうくるなり又にしをはる

3 かにみれはひのなみ水のなみ立にたり

4 ゆくへきかたなくしてしはらくたちやす

5 らいみれはさい人ともを我もくとせむる所

6 もありさい人ともくろかねのなわをかけ四

7 十四のつきめふし九をくのけのあなことに

8 くきをうつてせむる所もありにたん是を

9 みてあれはいかなる物そと申せはあれこそ

10 けんたんしよくをもつてりをもちたる物を（12ウ）

1 はひかことになしとかをかけ我はりをとりたる

2 物かあのやうにくをうくるなりもつましき

3 ものはけんたんしよくなり又ひかしを行て

4 みれはあるかねの上のほり東西み給へは

5 むかいに六道ありふそくころをもめして

6 はうすは人立給ふもちるたまはすこくそつ

7 あはうらせつかてへわたつてむけんへおと

8 さるゝ物をほくありにたんいかなるほうし

9 にてましますそと申せは大ほさつあれ

10 こそ六道ののうけの地さうほさつと申（13才）

1 たてまつるほとけにしやはに有し時

2 みやうりみやうもんをむねとして南無地

3 さうほさつともとなふる事なきかとむけん

4 におつる時佛我をたすけたまへと申せはしや

5 はにてみやつかいなければそのかひなしされ  
6 はしやはの物にふれよあしたことにとりの  
7 なくをとき、てもなむ地さう大ほさつととなふる  
8 へしとの給ふなりにたん申けるは六道とはいか、  
9 候やと申せは大ほさつ六道とは地こくかきち  
10 くしやうしゆらにんてんなりてん地こく道へ(13ウ)

1 おもむき給ふこ、にとくしやみすちあり中は  
2 をとこひたり右は女なりこれらかみすちよ  
3 りあひて中にあるとくしやをたてにとく  
4 しやかまきてくちをあはせてふくいき百ちやう  
5 にもへあかるなりにたんあれはいかなる物そと  
6 とい申せは大ほさつあれこそしやはにてふたみ  
7 ちかけし物か二人の女にむねをこかさせて有る  
8 おとこかくるしみをうけて一せんかうの間ふるへき  
9 なり又そはをみ給へは女のひきさかる、所も  
10 ありおとこ一人をさためさるとかによつて四(14オ)

1 まん五せんさいくをうくるなり又そはをみ給へは  
2 したをぬき出しくきをうちてまなこをぬかる、  
3 もありくろかねの大きくしひきみたす所も  
4 あれはいかにと申せはおやしうにはらをたて  
5 させ申たるとかなり又なうをうちくたかる、物  
6 もあり是はおやのまくらをこへたりし物なり  
7 又ある所をみ給へは十二ひとへをかさりたる女

8 いわの上になちても、のし、むらをひつききく  
9 くいほねはかりのこりておめきさけふ女あり  
10 是はしやはにてけいせいをたて、よろつのおとこ(14ウ)

1 をむさほり一身とすきし物なりそのならひに  
2 女を御らんすれば花の上にとうたいをうち  
3 たて、おもてのかわをはきてあふらにたく女はう  
4 ありおとこによくみゑんとてなきかたちをこ  
5 しらへてみやうかをこのみせめて念佛の一へん  
6 もとなふる事もなき物か、るくをうけてかねの  
7 なわ十三すち付てひつはしれてきたかあま  
8 ありあれはいかなるあまにて候そと申せはあれ  
9 こそかうつけの国にあるつまのしやうといふ所に  
10 うすいあまとであるか人のよくなる事を(15オ)

1 かなしみ又わろくなる事をよろこひされは  
2 ふつきの家にもまれてけんそくをもつ事三  
3 百よ人におよへりかりそめいとまをくる、  
4 事をかなしみ佛事せんこんをする事もなし  
5 きやうろんしやうけうをちやうもんする事も  
6 なしそうほうしをくやうする事もなしまして  
7 たうてらへまいる事もなしよきほどのさい人  
8 こそ十わうのさんたんにもあへ此あまはすくに  
9 大むけんにおとさる、なりいかににたんうけ  
10 給りおとこのちこくへおつる事はまれなり(15ウ)

- 1 た、女のおほくちこくゑはをとさるゝ女のおもふ事
  - 2 わあくこうよりなるはおもはずむしのなくなみた
  - 3 つもり月にことのさはりとなるされはおんなは
  - 4 おとこの方へちかつかぬ事は一年に八十四日なり
  - 5 かゝるかうをしらすしてせんこんにかたふかぬ事
  - 6 ごそむさんなれ又あるさい人にくろかねのなわ
  - 7 を甘すちはかりつけてきたるさい人ありにたん
  - 8 わいかなる物そと申せはあれこそ我かしよりやう
  - 9 にてもなき所をおさへとりてひやくしやうにわろ
  - 10 くあたりてある物かむねにくきをうたれて（16オ）
- 1 むけんにおとさるゝなり又きたのかたを御らん
  - 2 すれはくろ衣なる入道とも数しらす夫には
  - 3 くろかねのあみをはりかしゆくにせらるゝなり
  - 4 にけんとすれともいころしきりころす物有り
  - 5 いかにと申せは田はたけつくる事を物くさき
  - 6 事におもひてこつしきをして物をこいくい
  - 7 てせをうけたる物なりくをうくる事五ひやく
  - 8 おつこうなりたゝ田はたけをつくり神佛に
  - 9 まいらせそうはうしにくやうしたらん事にます
  - 10 事有へからす又ある所をみ給へはぬしのろうに（16ウ）
- 1 こめられてむけんにおつる物ありこせをとへ共
  - 2 うくる事なしねきしよくをもつてまつりを

- 3 せぬ物なり人のすましきはねきしよくなりそ
  - 4 はにてこのみくうもとかなり又有る所をみた
  - 5 まへはしたをぬきいたさるゝ女あり地こくを
  - 6 そろしとてかへる事なしといふ女かくをうけ
  - 7 て五ひやくおつかふなりかやうの女をみきく事
  - 8 あるましきなり又ある所を見給へはくろかね
  - 9 のなわ三十すちつけてむけんにおとさるゝ女
  - 10 あり是はとかなき下人内の物をうちはかし（17オ）
- 1 給ふ物なり又そはをみ給へは衣をこしに付て
  - 2 ある入道のむけんのはたをはしりめくるかあ
  - 3 ゆみはつしふみはつしおち入かたなれともそ
  - 4 こへはおちいらすしてのほりあかりては又おち
  - 5 ிரいて中ほとをはしりまいる物ありこれは
  - 6 念佛しうには入といへとも人めはかりの後生
  - 7 をねかいたつきたうたふへはまいらすして念佛
  - 8 の日は人よりさきに行てさをはりめしき
  - 9 けをのみくいしとかによつてしやうくせゝにも
  - 10 たへへからす又ある所を見給へはくきをうた（17ウ）
- 1 れあほうらせつにさかさるゝ女ありこれは
  - 2 おとこによくみゑんとてはらみたるかこを
  - 3 をろしたるとかによつて一まんみせんかうをふる
  - 4 へきなり又にたんでんを見あければかさり
  - 5 いしやうの衣いつくしき女はうやうらくのたまの



- 6 こしにのり五しきのふきなひかし火ひの風に
- 7 ふかせてほとけらいかうし給へは廿五のほさつ
- 8 まひあそひ九本のちやうとへみちひき給ふい
- 9 かなる人そと申せは大ほさつあれこそひた
- 10 の国のきく田のしやうにある女はうか神佛系(18才)
- 1 まいりそうほうしをくやうしかまとせきやう
- 2 をひきさむけなる物にはいしやうをとらせ大じ
- 3 ひをもつてむねとする女はうか今はちやうとへ
- 4 まいるなり又そはを見給へはあみを百ちやう
- 5 にはりさい人を取り入てくろかねのなわを
- 6 してくひをく、されておめきさけへともかな
- 7 わすほのをは百ちやうにもへあかりたるをつかい
- 8 はなをさしたりしとかによりて今四せんかう
- 9 をふるなり又めはなより鳥のこをおしたる物
- 10 もあり鳥の子をのみたるとかによつて六十(18ウ)
- 1 かうをふるなり又そはを見給へは入道をとら
- 2 糸てふれはなつきよりし、むらをふり出す
- 3 ことにあり是はかひをたもつはかりにて念
- 4 佛を申せとも心の内には人にくしと思ひし
- 5 とかにより一せんさいをふるなり又有所を
- 6 御らんすれは二つのまなこをくしる、物あり
- 7 まずにすくなき物をおほくに見せあるひは
- 8 人の物をぬすみしとかにより五ひやくおつこう

- 9 をふるへきなり又にたんうけたまはれ一じ
- 10 なりともみしりたらん物ほうしをわろく(19才)
- 1 申物はむけんにおとさる、物なり一字もしらさる
- 2 はまうもくにことならず又おとこ女のたわふれ
- 3 に月日のかけをふみ申事むけんにおつる也
- 4 又ある所を御らんすれはゆきこほりに身を
- 5 うち入てかつにつめられてふるいおめきさけ
- 6 ふ物もあり山たちかいそくおひはきかんだうを
- 7 せしとかによつてせんまんかうをふるへきなり
- 8 又こ、にあまの有か年さかりにあまはなつて
- 9 ねたいあまになりつらんかみたにもつけたらん
- 10 おとこにそてをひかるへき物をかみをさけ(19ウ)
- 1 たるを見てはうら山敷おもひつねにむかしを
- 2 こいしく思ひふく風たつなみに付てうたを
- 3 よみ心をすましかくてあまになりけるかお
- 4 とこのそてをひきくわひにんさんのひほを
- 5 ときたる物がこしにくきをうたれはうは四大かい
- 6 のことくめはなよりちをつきてこくちう地こく
- 7 におとさる、なりされはあまになりてはち
- 8 きりをこむる事あるましきなり又ある所を
- 9 み給へは女のほか心をもちたるとかにより
- 10 まろかしをさけられて百ちやうの山原の(20才)

- 1 ほれ／＼とせめらるゝ事一まん五千さい也
- 2 又そはを見給へはめしひつにむかいける女
- 3 のあり人のきたるをいとひてかほあかめひつ
- 4 の中へかほを入れて見ぬよししたる女かいまは
- 5 ほのおの中におもてを入れて四十二まんかうか間
- 6 かほはかりもへうしなふなりされは物くう
- 7 時人のきたるをあはすにおもはぬ事なりゑ
- 8 みをふくめとの給ひけり又かたわらを見給へは
- 9 かみにひを付てたかるゝ女もあらかみのおつる
- 10 をかなしみ一すちをせんすちになさはやと（20ウ）
- 1 おもふとかにより九千かうをふるへきなり又
- 2 こを一人うみてなおうまさるも大むけんに
- 3 おつるなり月に一とさはりなきをはから女
- 4 と申て是を同かうなりかやうの人のもちたる
- 5 たからはいきたるほどはかりなりゆめまほろし
- 6 のことくなりいきたる内にせんこんをいたすへ
- 7 し又ある所を見給へは一ちやうの石の上におせ
- 8 をきてなつきをつく事かきりなし是は
- 9 おやまでもなしこにてもなき人のおんをかふる
- 10 其おんをおくらさるとかによりてかゝる（21オ）
- 1 くをうくる事かきりなし又そのならひを
- 2 み給へはてあしをさん／＼にきりとらるゝ物
- 3 もあり是はよにもいらぬきのゑたをきり

- 4 野へのわかくさのもへ出るをきりすてたる物
- 5 かやうにくをゑるなり又かき道へおもむき給ひ
- 6 てみせられけるはらの大なる事かきりなし
- 7 くひははりのことくなりなつきはたいさんの
- 8 ことしなかとすれともなみたこほれす又
- 9 めしをまへにおきてくわんとすれはのとより
- 10 ほのほ出てやきうしなふ間のみ入すたゝあ（21ウ）
- 1 けくれ物ほしやと思ふはかりにて五せんまん
- 2 かうをふるなり是はさいほうをもつて人にも
- 3 ふそくせすたゝおしやとおもふはかりにてくをう
- 4 くるなりにたん日本の人にふれよふつきに
- 5 むまれてあらんをもそねみ申ましきなりさき
- 6 のよにせんこんせぬ物かひんにうまるゝなり
- 7 とくのある人はみなささきの世のせんをしたる
- 8 物なり又かきかこをかゝへてあしをおのか
- 9 きりくふ所あり是はこをうりてうけたると
- 10 なりうけましくはうる事なかれとふれよ（22オ）
- 1 さい人を見給へはめしをくみてくちを
- 2 とちられておさむへき所なしめはなより
- 3 くないをまろめたることくにあればなに
- 4 ものそと申せはあれこそある物をなきやうに
- 5 して人めをかねみてくはんとせし物かかゝる
- 6 くをうけて十まんかうをふるへきなり又かき

7 道のつしを御らんすればさうしありいかなる  
8 さうしそと申せはみかわの国ほつたのこうり  
9 に平太入道とてなをはめいしんといふか  
10 我か行末を心へ女はうにかたりけるはせんに(22ウ)

1 かたふけと申せは女はうはつみふかきにもつ  
2 ともと申心をひとつにしてこしやうをねかふ  
3 事をさうしにつけられ申九ほんのち  
4 やうとに三世のしよふつあつまりて二人の  
5 ためにこかねのひかりたうをそつくり給ひ  
6 ける又ちやうとを御らんすればてんをかける  
7 つはさ地をはしるけた物数をしらす取  
8 つなかれてゆるしなればゆかんとおもへ共  
9 ゆかすおやはこに思ひをかけこはおやなと  
10 さんとおもふ事ありあるひはせいをたて(23オ)

1 おやにもこにもちきりをこめたる物かみな  
2 ちくしやう道へおつるなり又ちやうとをみ  
3 給へはほのおひた、しくもへあかるその内  
4 にゆみやをまとへひやうしようかんちうを  
5 いたしみのけもよたつてたとゑんかたも  
6 なしされはつるきにかゝりたる物はかゝる所に  
7 おちてくをうくる事二せん二百かうなりか  
8 くてゑんものちやうへつかせ給ふみせ給へはし  
9 ろかねのつひし四百四十里につかせこかねの

10 もんのたてられけり大わうのすませ(23ウ)

1 給ふ所にはこかねのひかりたうをたてられ  
2 けり十わうに十わう一たいつ、たち給ひて  
3 せんあくのひはんのふたをつけられけるせん  
4 をはこかねのふたにつけあくをはくろかね  
5 のふたにつけられけりくしやうしんの給ひ  
6 けるはなんちかつくりおきたるふたよとて  
7 よみ給へはさい人共もしや一たんのかゝるか  
8 とてよみあらそいけるかうのはかりにかけ  
9 られけりおもきやとあらそい申さらは  
10 ちやうはりのかゝみのくもりなく七さいより(24オ)

1 こなたにつくりをきたるつみとか一もかくれ  
2 なければそのときさい人共ふしころひかう  
3 へを地に付てちのなみたをなかしほとけ  
4 われらをたすけ給へとかなしめともつくり  
5 たりしとかなれはそのかひなし十わう  
6 さんたんし給ひてしやはにきやうしも  
7 ちたる物をはしはらくまち給ふきやうし  
8 なき物をはとかによつてむけんにおとされ  
9 けりあるいわくろかねのうすに入てつかる  
10 る物もありあるひはさまゝにおこなはれけり(24ウ)

- 2 ふかき物はいよ／＼きしんのすかたをみせ給ふ
  - 3 五十わうの御まへにあるにうたうをかなしき
  - 4 のうへにおいてさん／＼にいらるゝ物あり是は
  - 5 しらぬほうをしりたるやうにもてなして人に
  - 6 かつこうせられてある物か三まんかうをふるへ
  - 7 きなりきやうろんしやうきやうをしらす
  - 8 してくやうをゑへからす又くしやうしんさん
  - 9 たんありてふつしをまち七日をうくる時
  - 10 わたし給ふ二七日三七日四七日五七日六七日七（25才）
- 1 七日百か日をまちくらされけれどもきやう
  - 2 やうとふらふ人もなしあはうらせつ申
  - 3 けるはいまは給りてむけんにおとさんと申
  - 4 せは十わうきこしめしおほせあるやうは一
  - 5 しょうきたい三年を待てみよとありければ
  - 6 しんこんきやうしやのわたりたまはる也かう
  - 7 ふかき物はくろかねのはしをわたるなりとお
  - 8 しへ給ふいさやにたんとてしろかねのはし
  - 9 をわたり給ひて九ほんのちやうとへ入て
  - 10 み給へはくわうみやうのひかりあさやかに（25ウ）
- 1 して法花さんまいのたうちやうもありしん
  - 2 こんをおこなふ所もあり念佛三まいの所
  - 3 もありせつほうしゆくわいの所もありさせん
  - 4 にうてうの所もありいきやうくうしてかう

- 5 はしくたまをのへたるかごとく也はち
  - 6 のひらくる所もあり花をおりかけて五
  - 7 色のはたをひらき大ひの風にまかせな
  - 8 ひかし廿五のほさつはきかくをとゝのへしよ
  - 9 ふつのらいかふし給ふけめうの花ふりかゝり
  - 10 心ことはもおよはすにたん是をみてか（26才）
- 1 くてあらまほしくそおもひけんさるほどに
  - 2 なをほとけのつほねみせんとてつほねへ
  - 3 入て御らんすれはまつ大日のつほねをみ
  - 4 せられる大日の御つほねは中にたち給ふ
  - 5 にたんおかみ申て心もきえ入やうにてつ
  - 6 くれるつみきへぬへし是はあみたのつ
  - 7 ほね是はしやかのつほね是はやくしのつ
  - 8 ほね是は地さうのつほね是はくわんおんの
  - 9 つほね是はせいしのつほね是はしよふつ
  - 10 すませ給ふ所とて一／＼におかませ給ふせん（26ウ）
- 1 こんに入といへとも心にそまる物はめはなにく
  - 2 きをうたれて大せうねつのそこにおちん
  - 3 事うたかいなし又こゝにおとこせんこんにか
  - 4 たふけは女はらをたてゝとかくいひければ
  - 5 女の心にたかはしとてせんこんいたさゝれはおと
  - 6 こののとよりつるき出女のくひをさしつ
  - 7 らぬきおもてもふらすたかいくをうくる

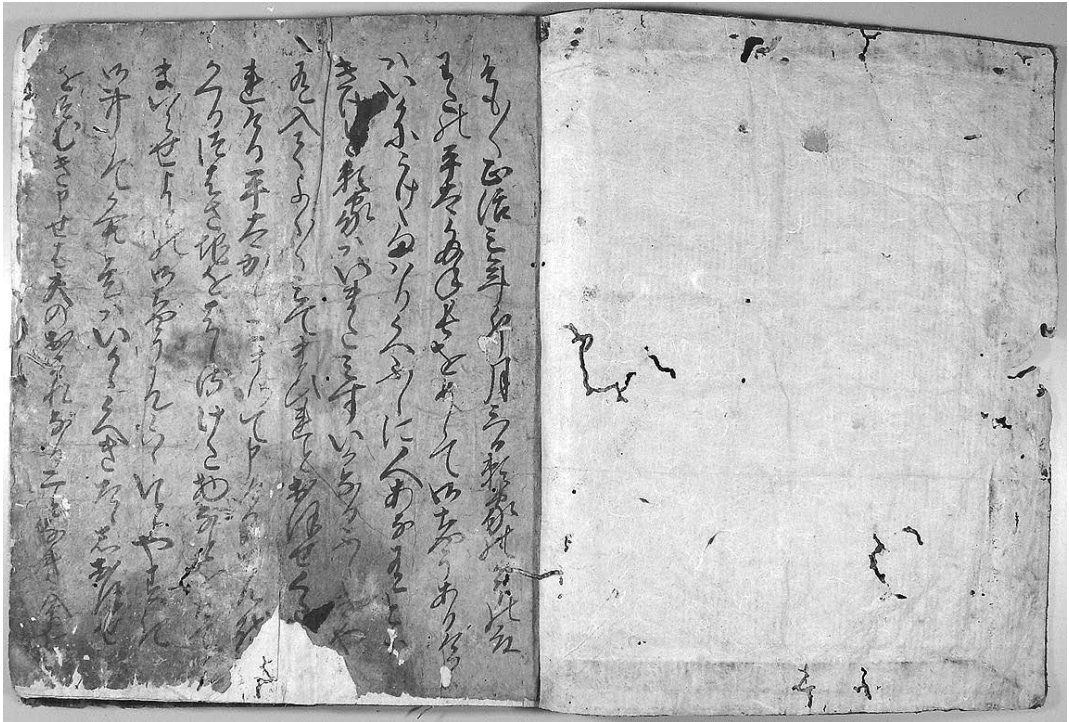
- 8 事五十かうなりおとこも女も心を一にし
- 9 てせんこんをいたすへきなりさてひきて
- 10 物にはこかねのさうしを三てうなんちに(27才)

- 1 とらするなりひたりのわきにはさみて
- 2 日本へ返りてなんちか一こはて、一つ三年と
- 3 いわん時いつの山にてひろむへし日本の
- 4 しゆちやうともいふなるは地こくこくらくと
- 5 いへともめに見る事なしといふなかにこの
- 6 さうしをみすへきなりかまいてく身つから
- 7 かありさま六道四しやうのありさまをゆめく
- 8 かたるへからすさていさや日本へ返さんとて
- 9 にたんをひきくしてひかしへむきたる道
- 10 糸かへされける大ほさつおほせけるはなをく(27ウ)

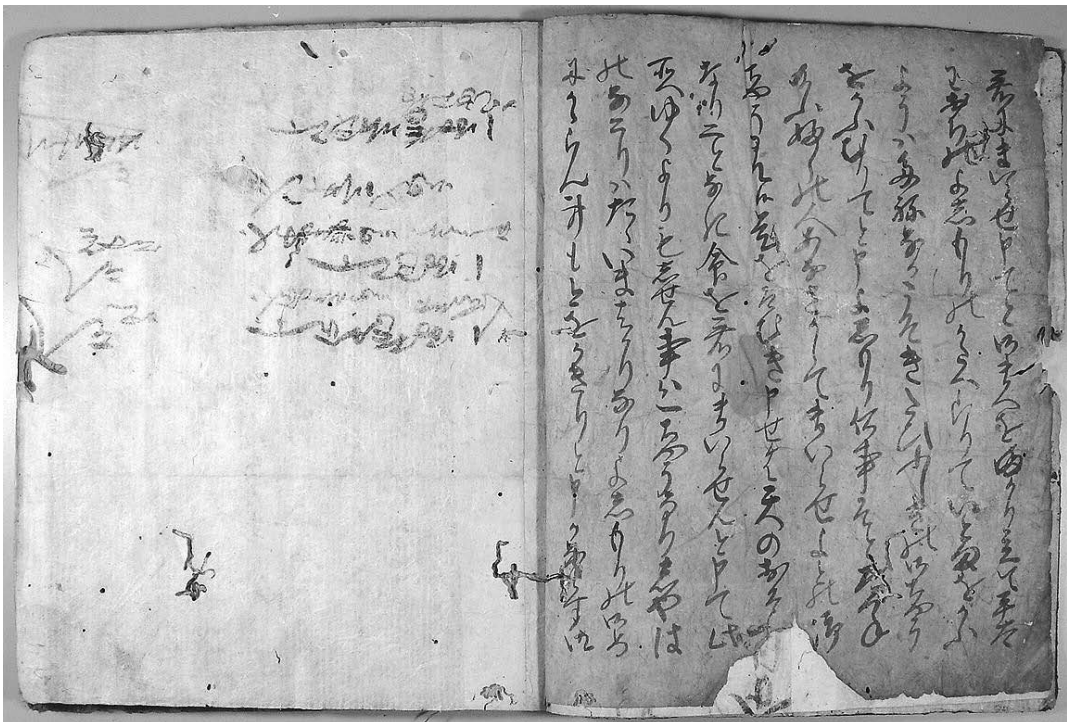
- 1 身つから事より家にかたるへからすもしか
- 2 たる物ならはなんちもしすへきなり又より家も
- 3 むなしくなりてしそもあるましき也返々心
- 4 糸へしこかねのさうしもとの所へかへすへき
- 5 なり身つからをうらむなとて七日かと申せは
- 6 岩屋の内を出給ふなりさても君をはしめ
- 7 まいらせてさめきわたせけりし、たる物のよみ
- 8 かへりたるやうにみな人をもわれけるさてかま
- 9 くら殿にたんをめしていかに岩屋のふし
- 10 きをかたり申せとおほせけるかしこまつて(28才)

- 1 いかやうの事し御さなきと申さんとすれば君の
- 2 御いにちかふへきなりにたんおもふやうた、いま
- 3 いたる所にて御ふしんをかふむらんよりのちの事は
- 4 するへからすとて岩屋のふしきくにかたり申た
- 5 とへはふるなのへんにことならすしやうしのね
- 6 ふりもさめぬへしかくてにたん申すもはてす
- 7 四十一と申につるにむなしくなりにけりやかて
- 8 てんよりよははりけり身つからありさまを
- 9 かたる間こかねのさうしもとるかへすなりよ
- 10 り家もとてもたすくへからすとてかき(28ウ)
- 1 けすやうにうせにけり国くの大みやう少みやう
- 2 いとま申てみなかへりけり
- 3
- 4 慶長七年正月廿三日書之
- 5 かきおくも袖こそぬるれもおくき
- 6 なからん路のかたみともなれ(29才)

写真

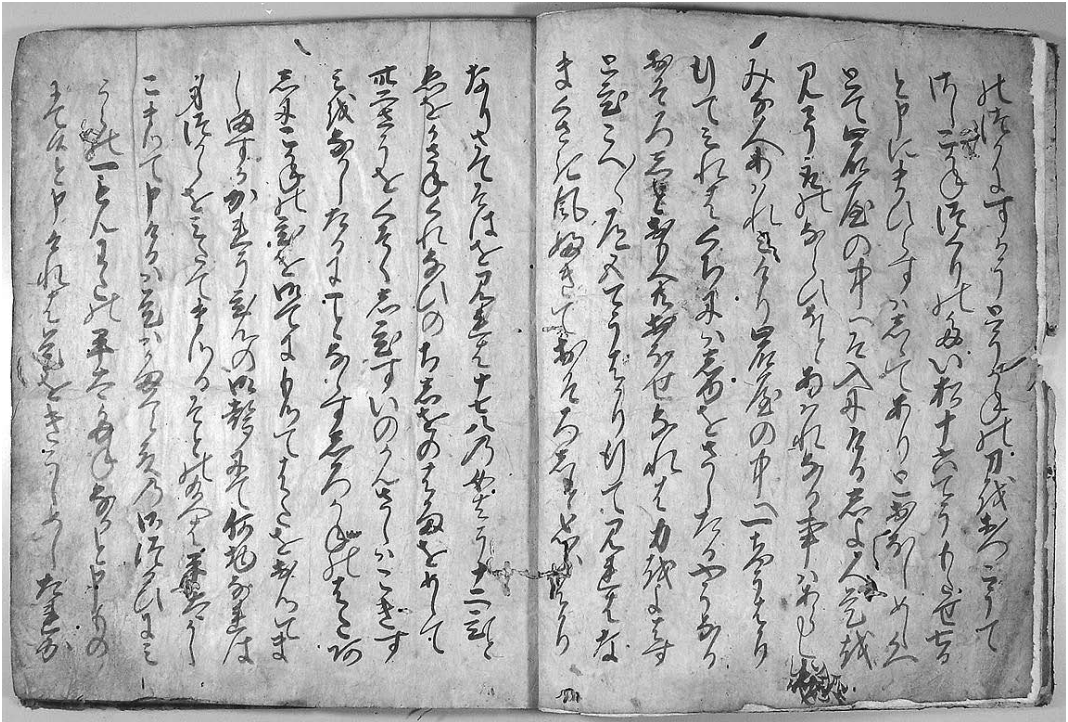


1才



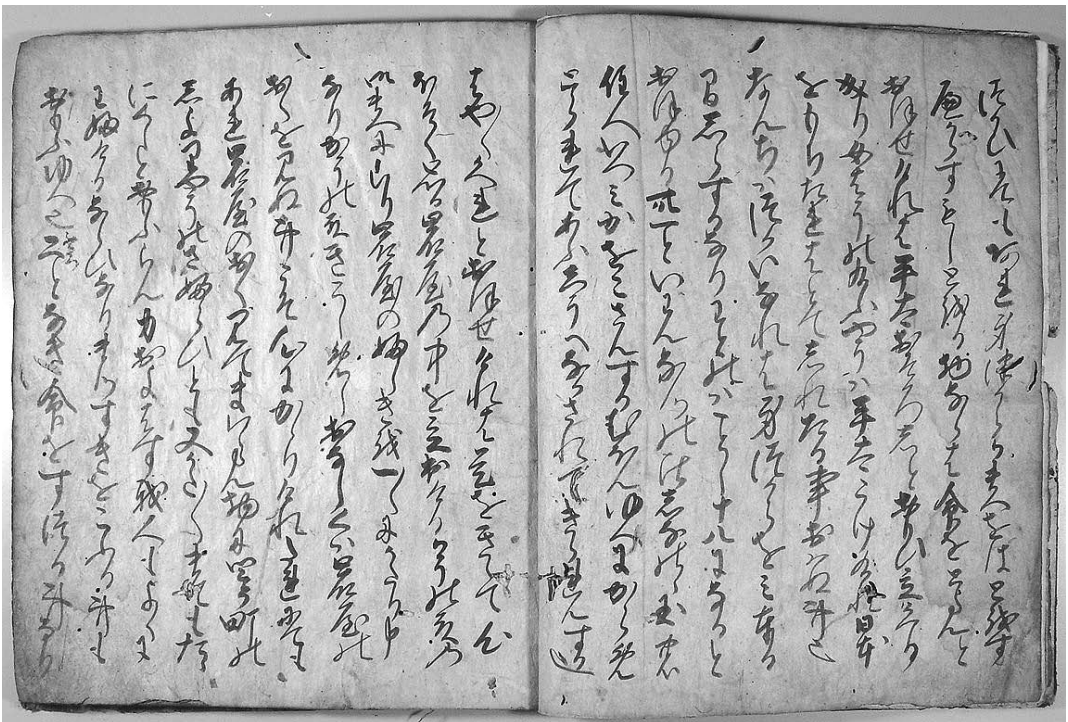
2才（欠落）

1ウ



2ウ

3オ



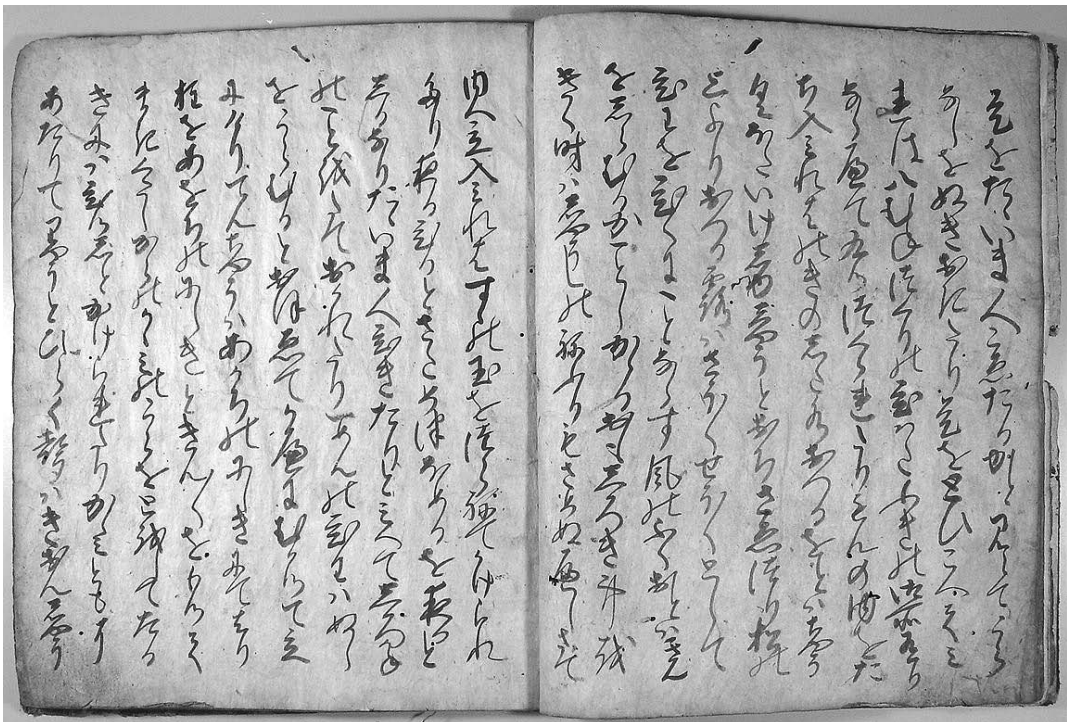
3ウ

4オ



5オ

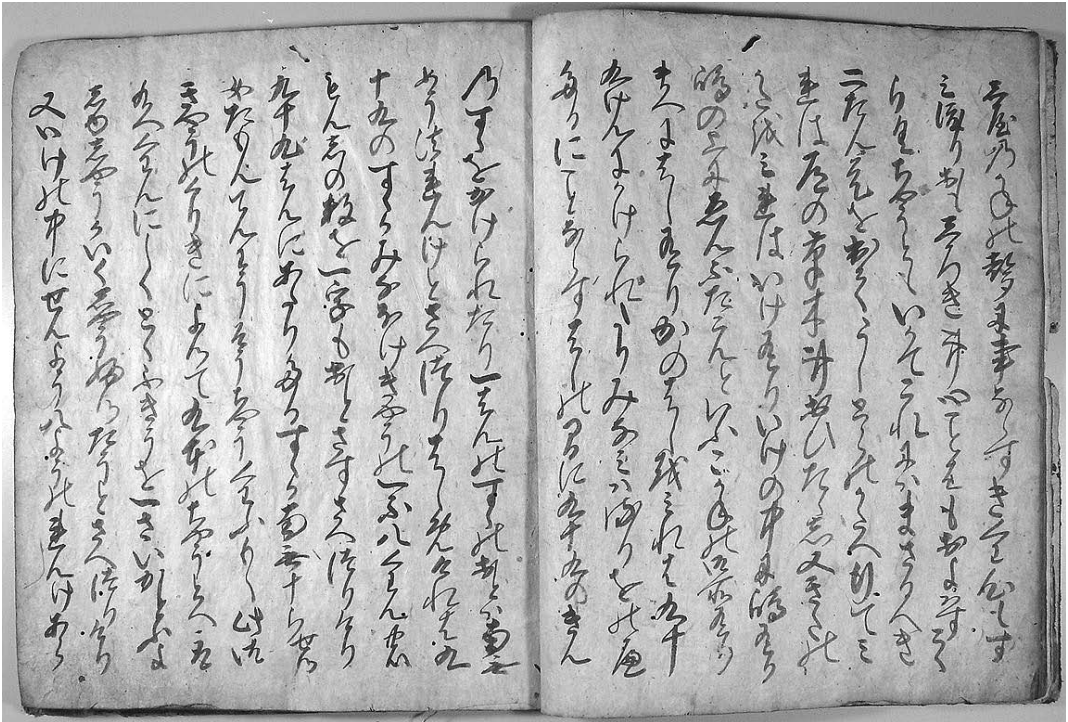
4ウ



6オ

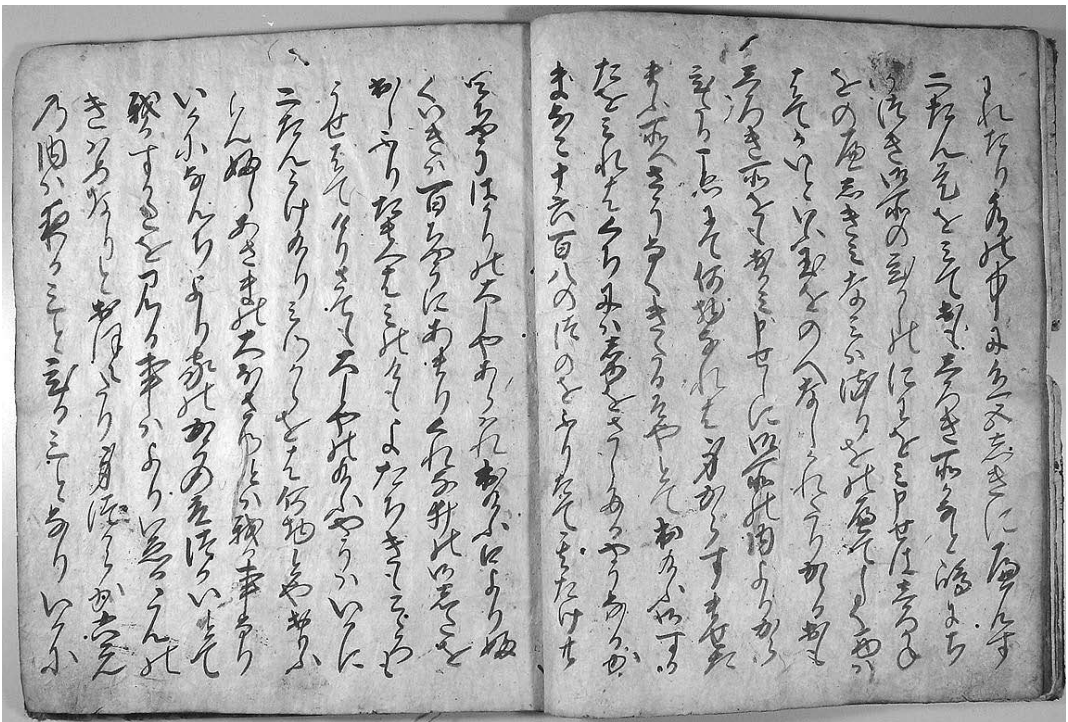
5ウ





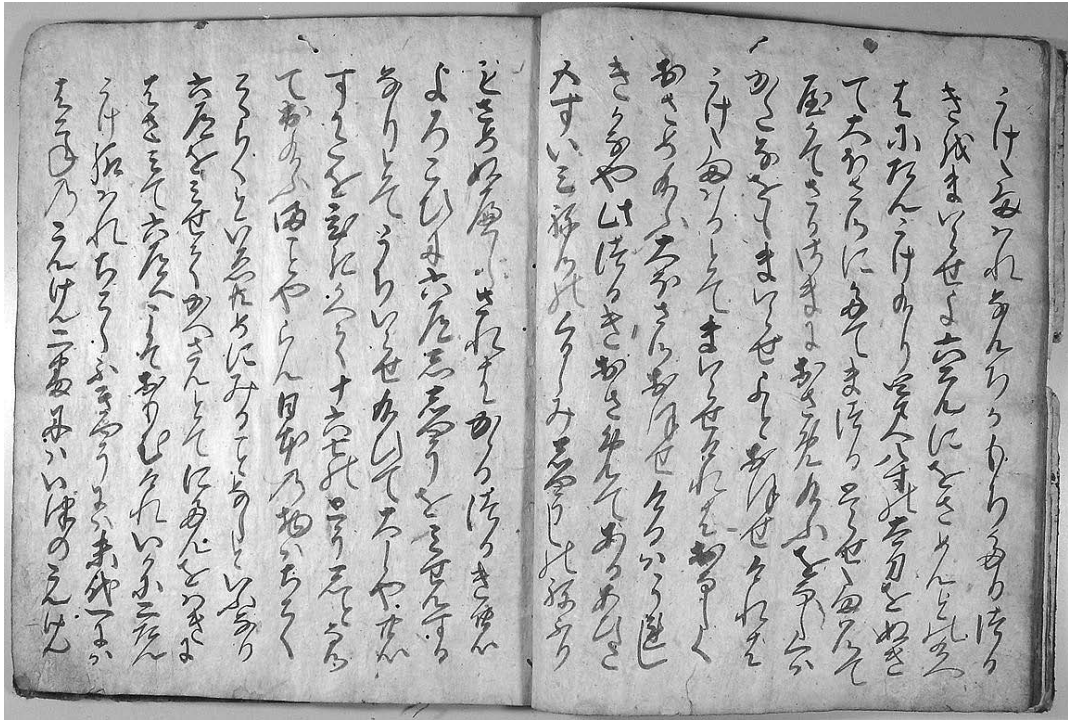
7オ

6ウ



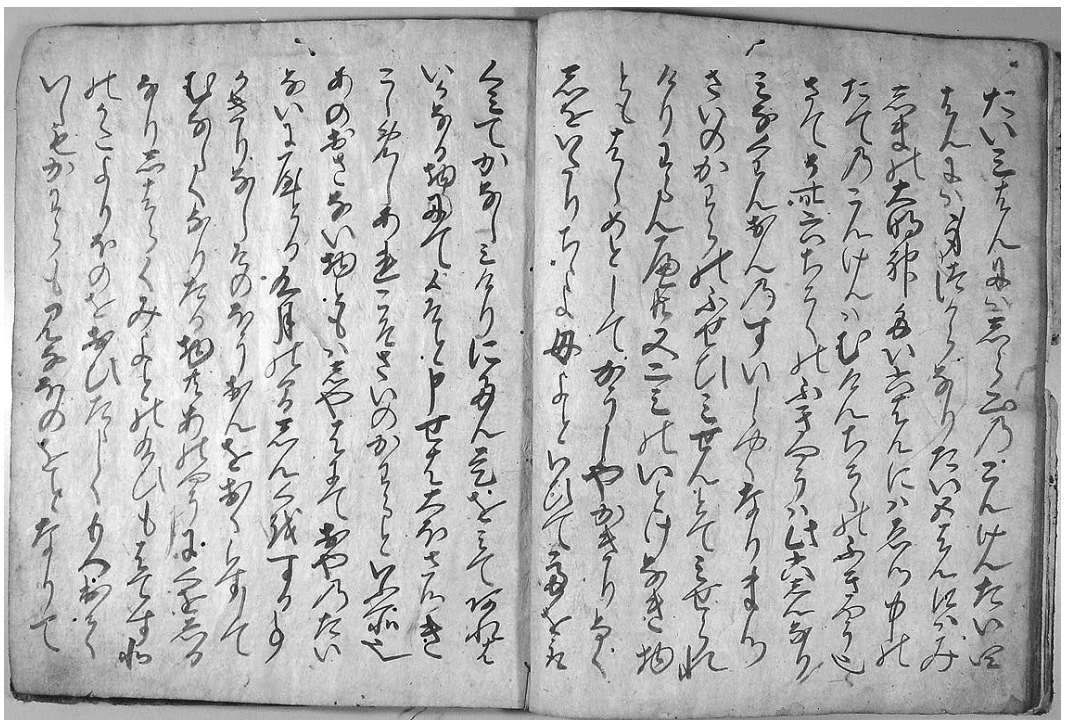
8オ

7ウ



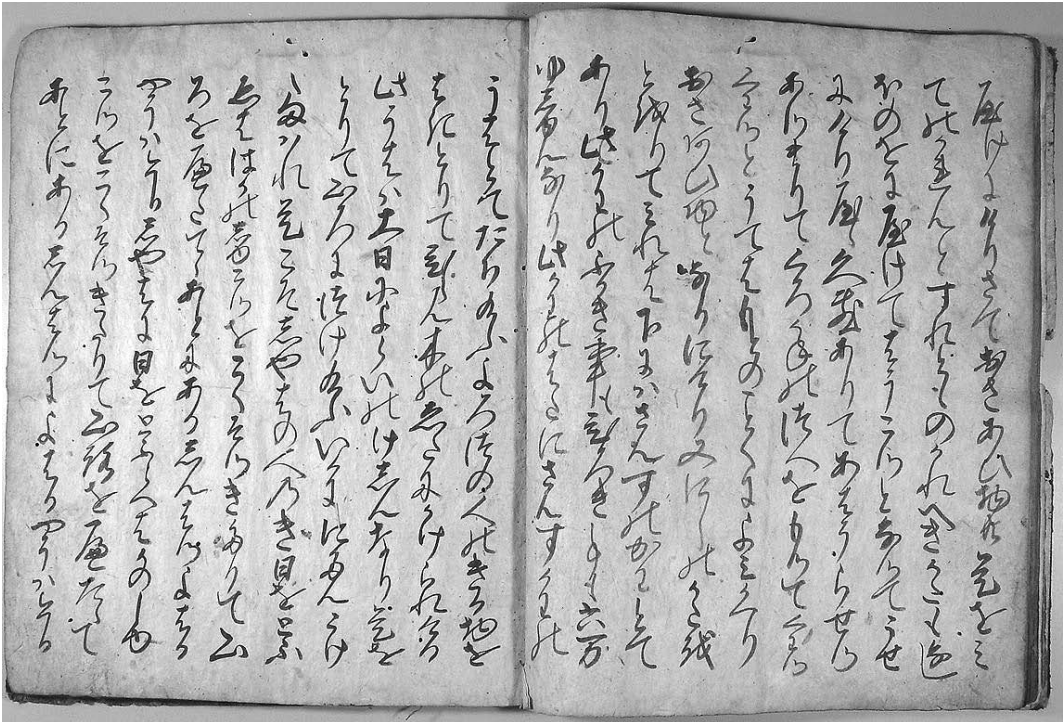
9オ

8ウ



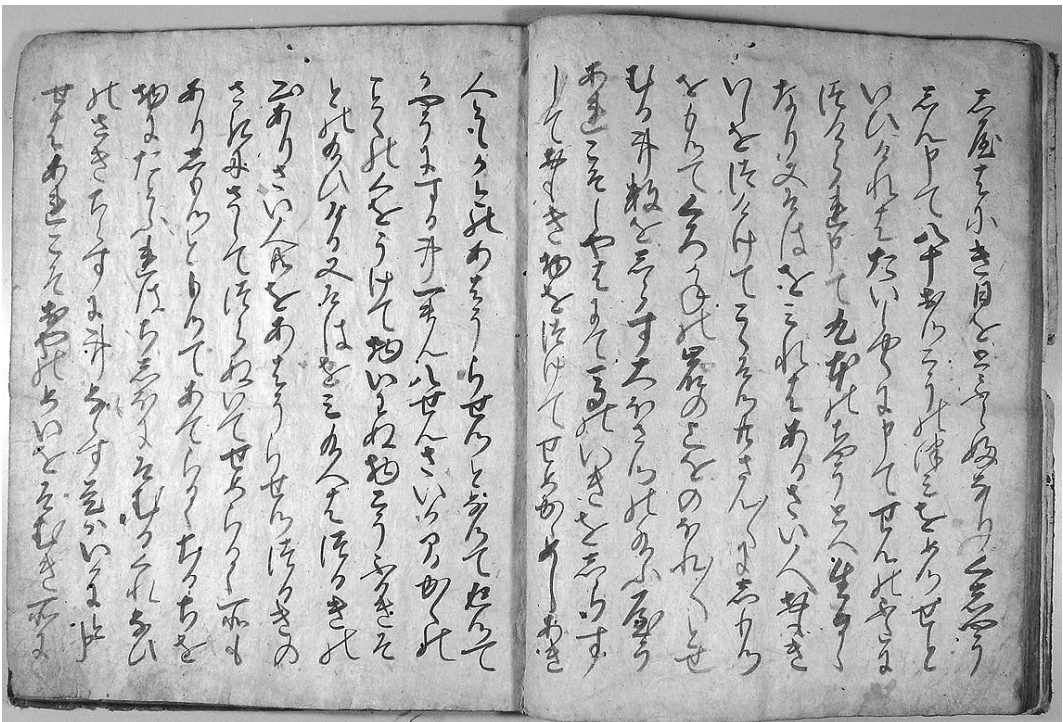
10オ

9ウ



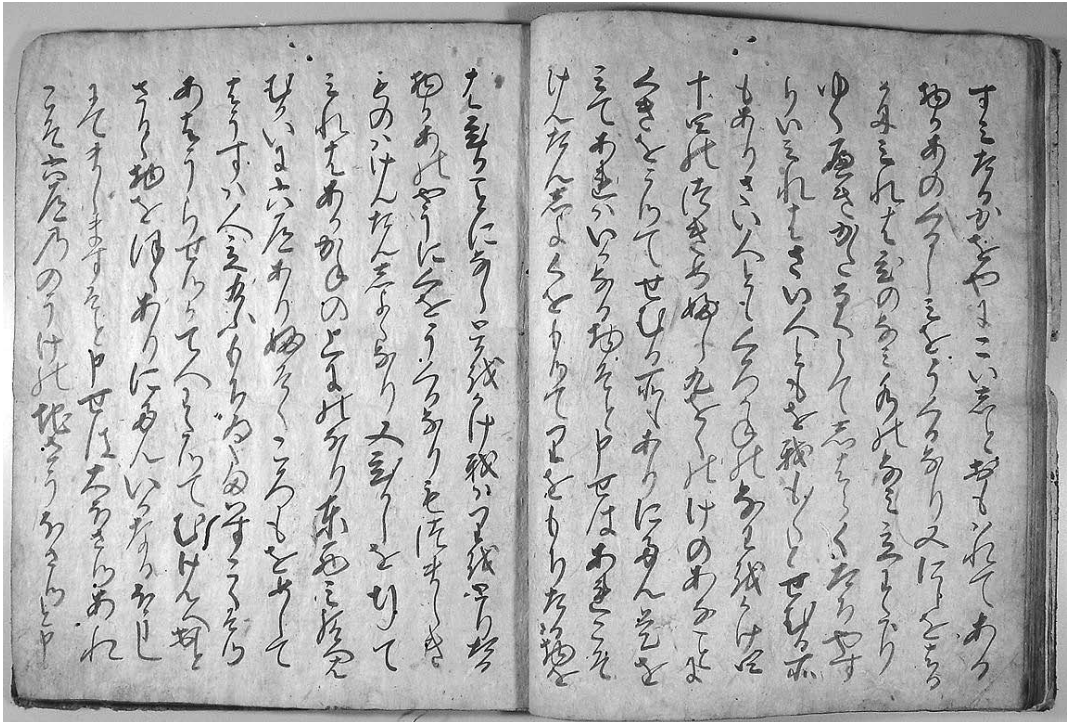
10ウ

11オ



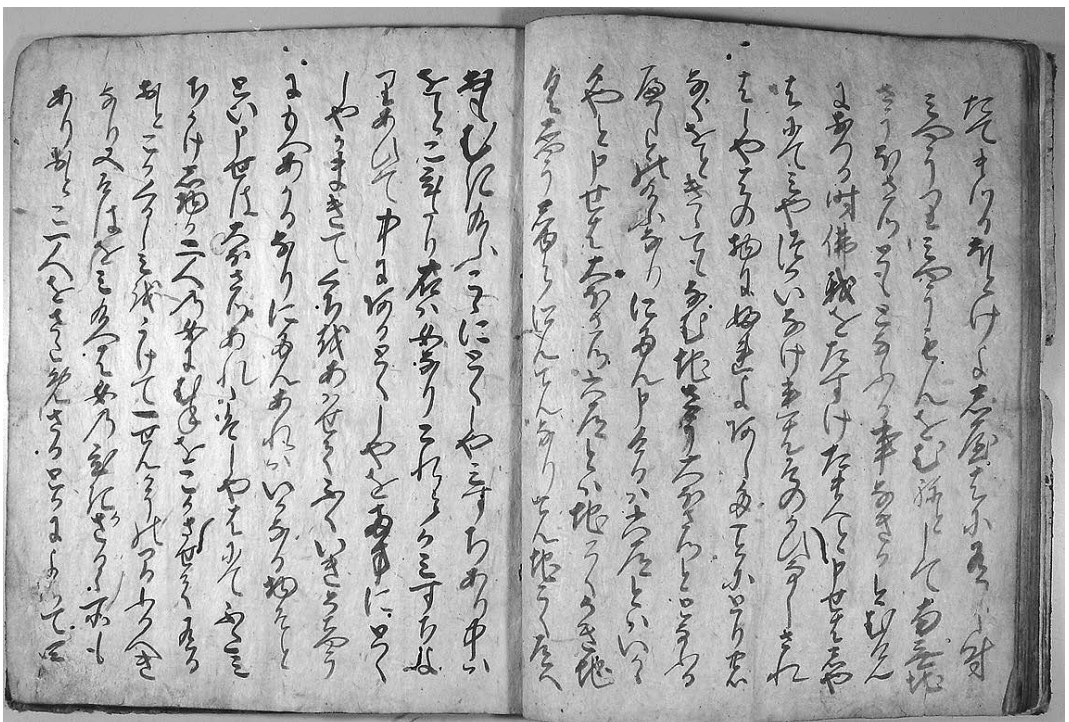
11ウ

12オ



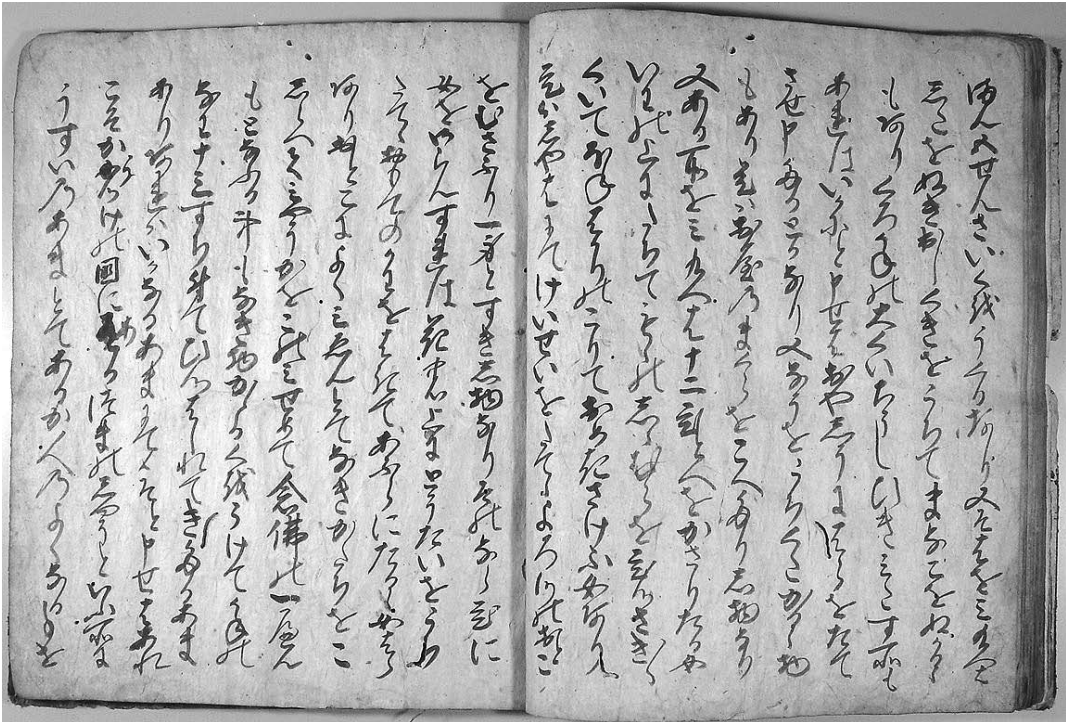
13才

12ウ



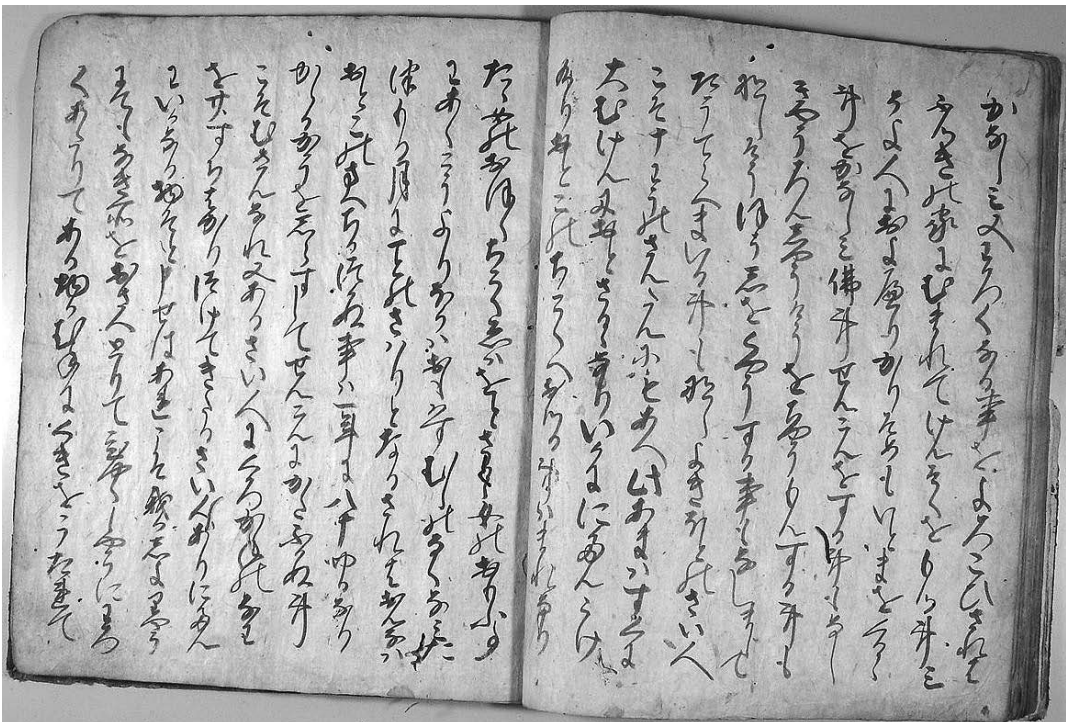
14才

13ウ



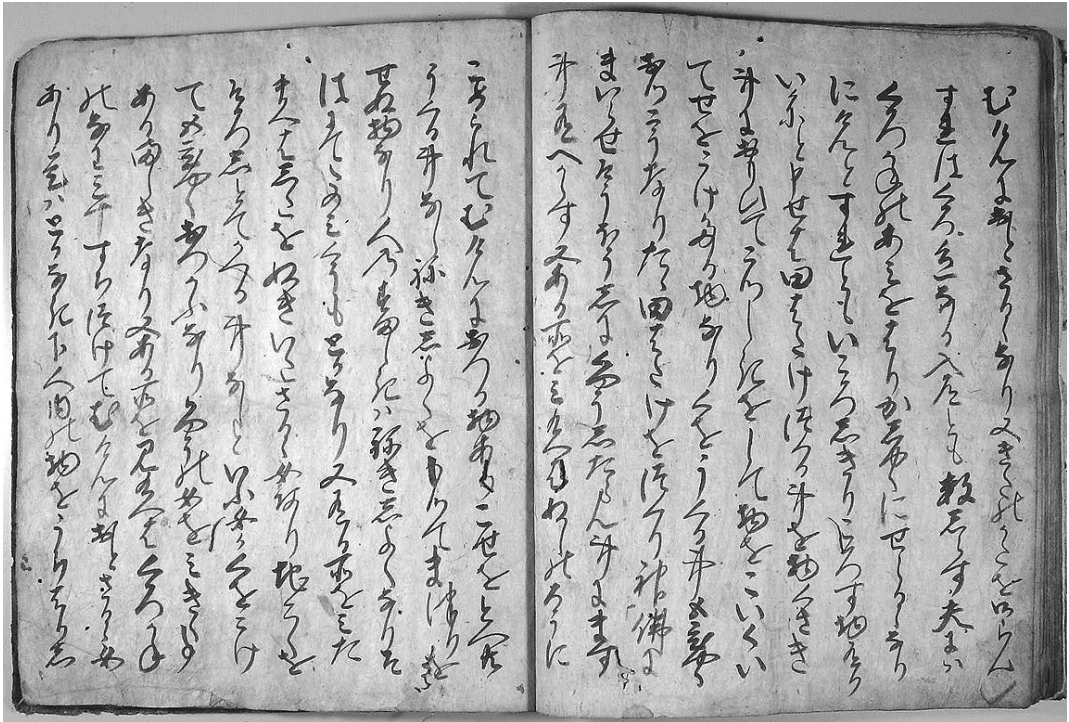
14ウ

15オ



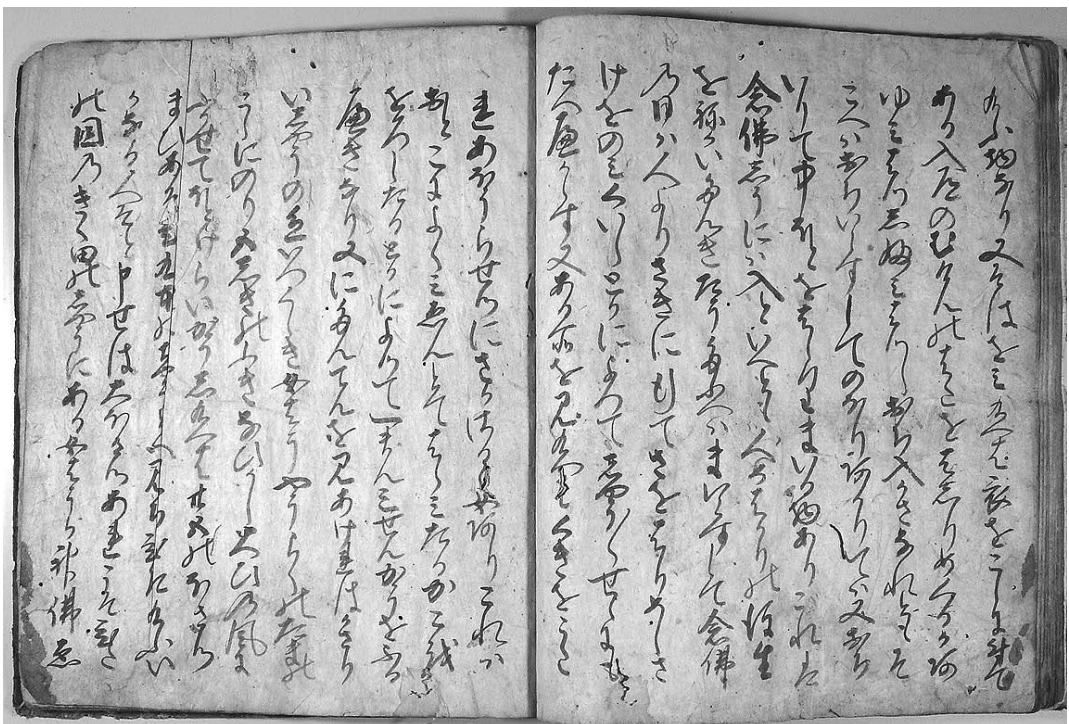
15ウ

16オ



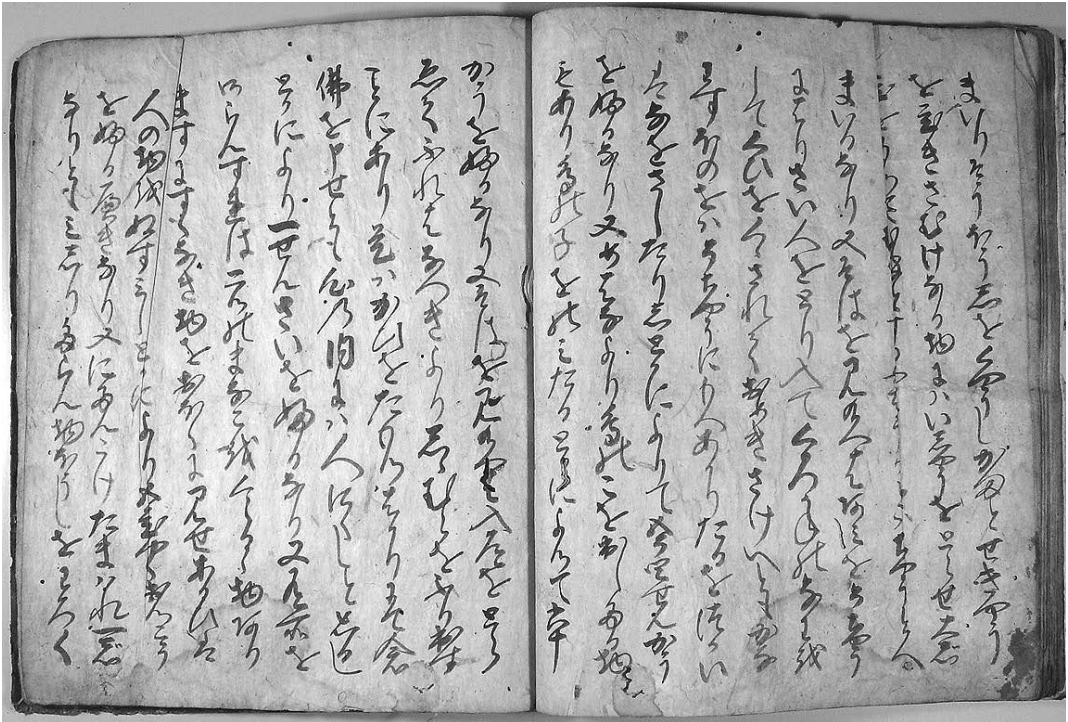
17才

16ウ



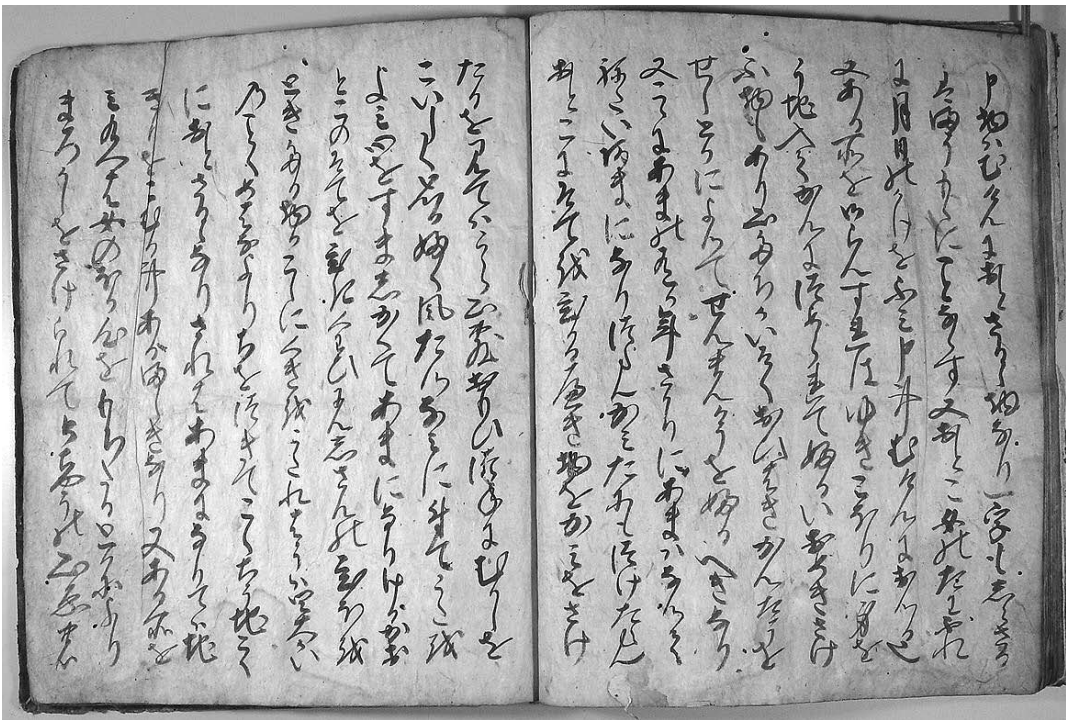
18才

17ウ



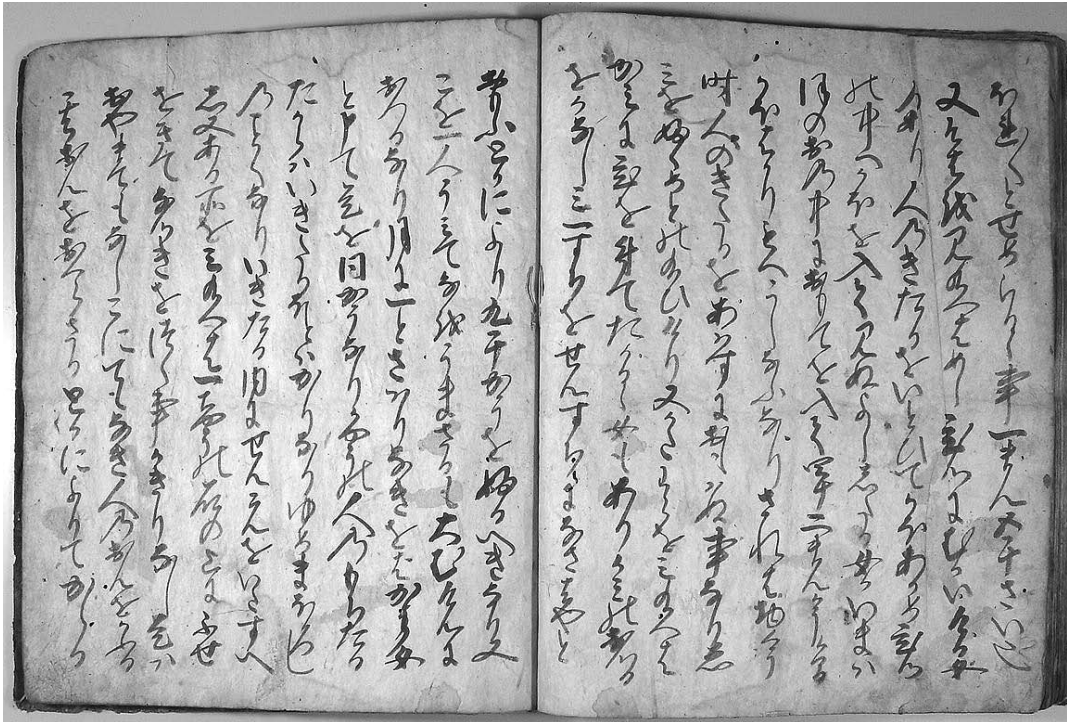
19才

18ウ



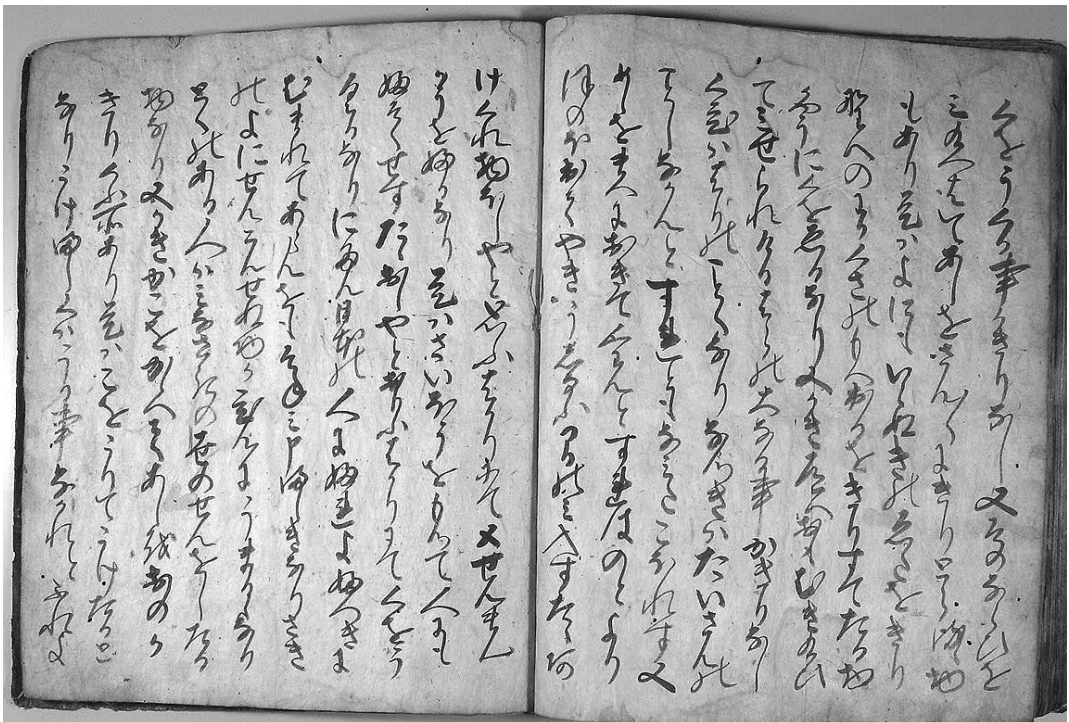
20才

19ウ



21オ

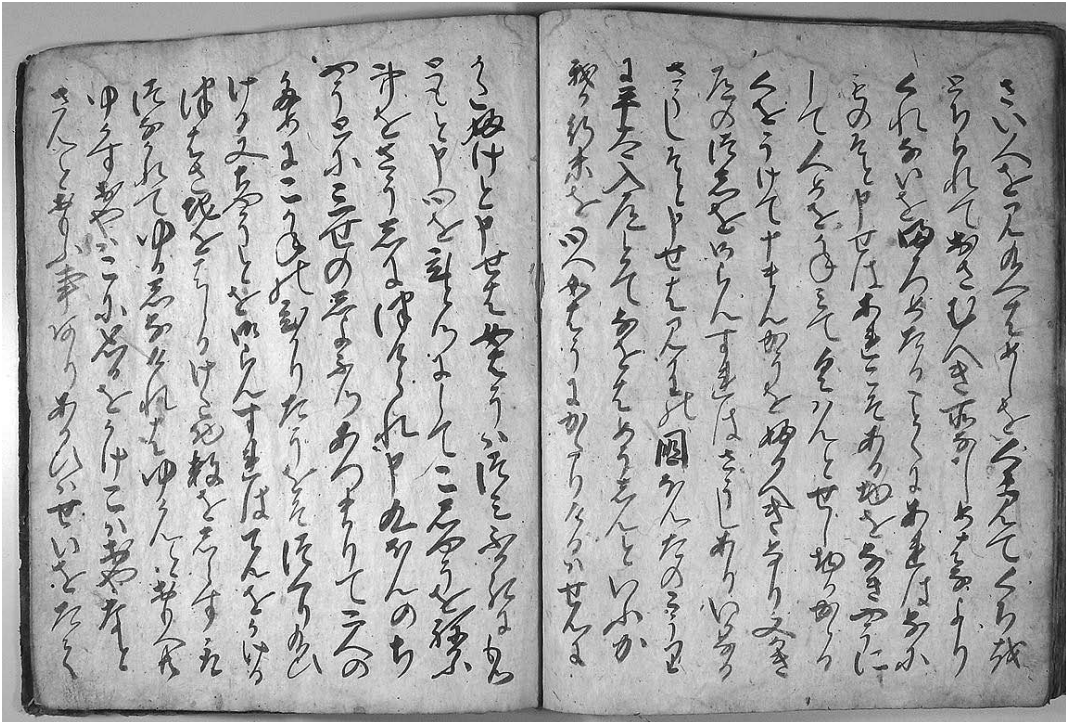
20ウ



22オ

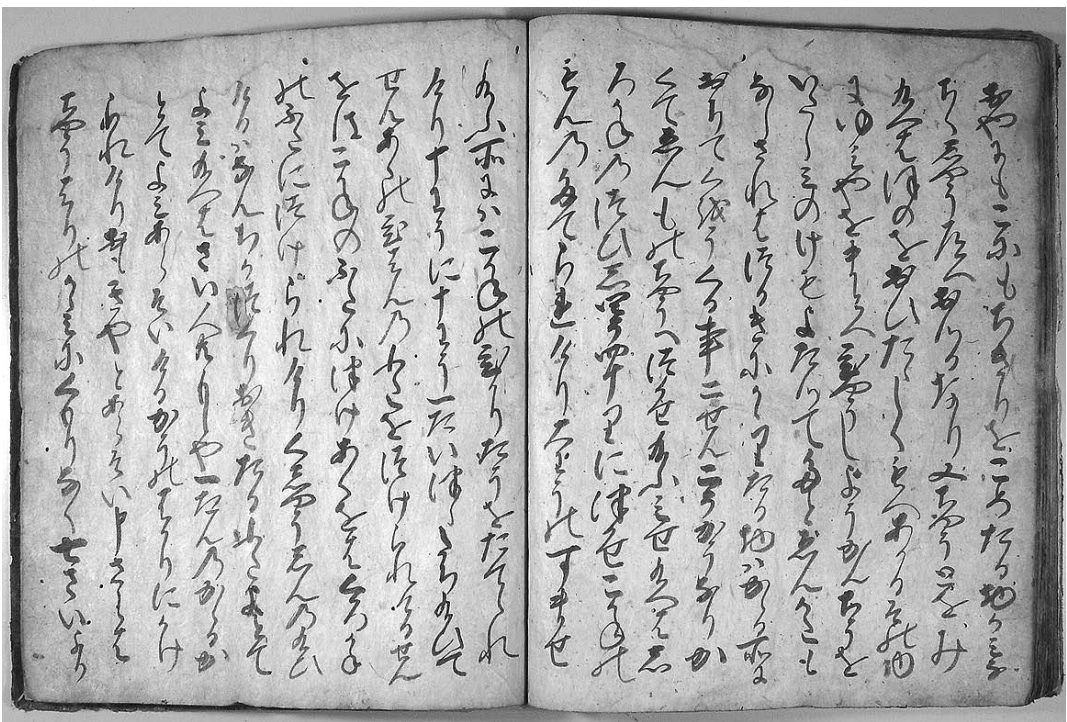
21ウ





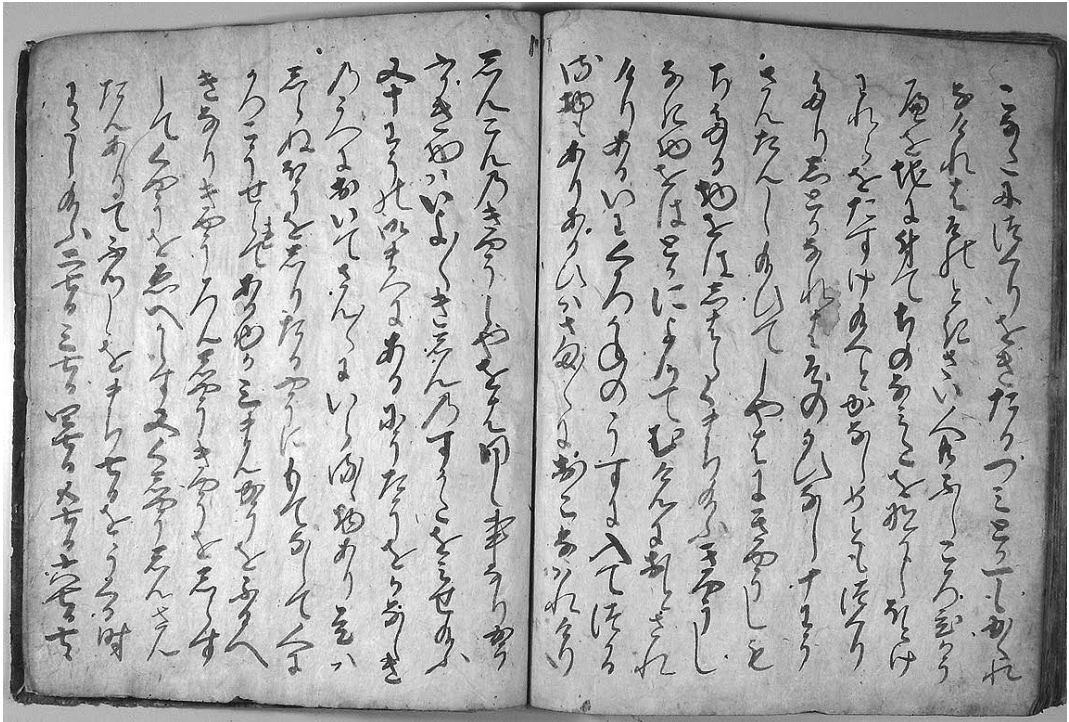
23オ

22ウ



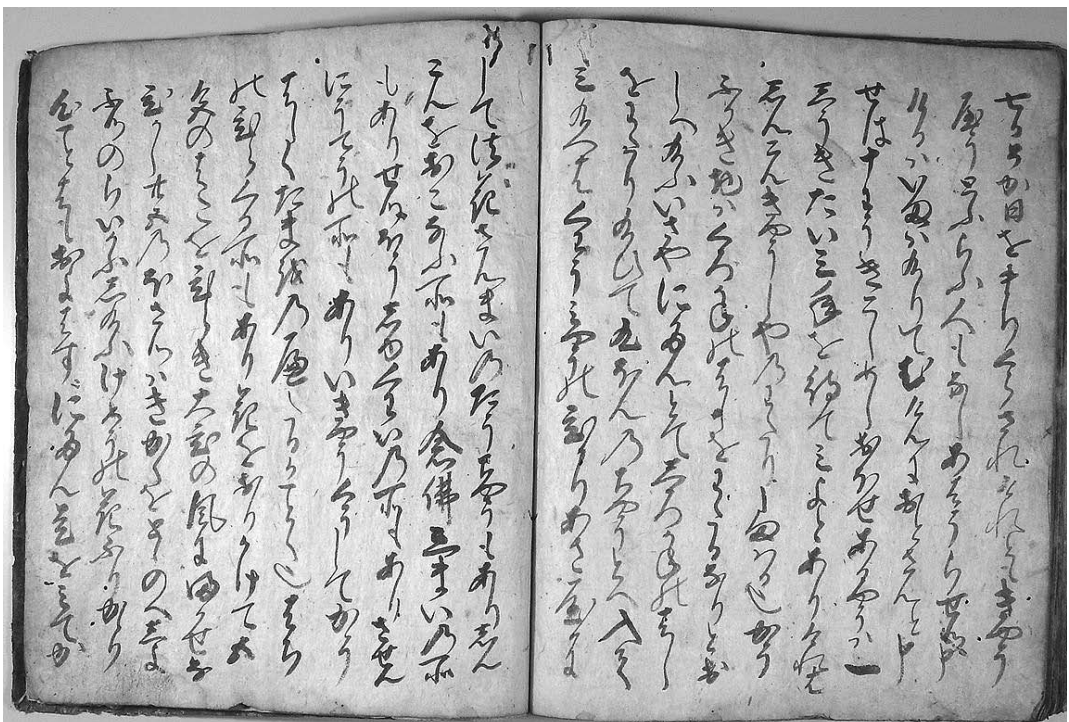
24オ

23ウ



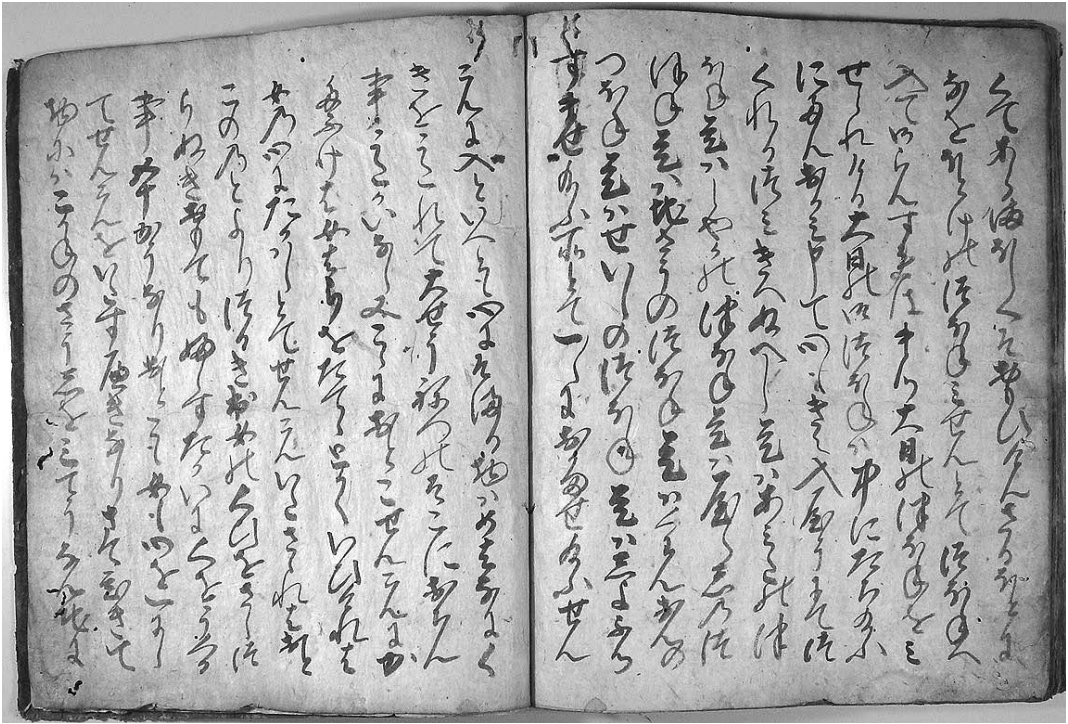
25オ

24ウ



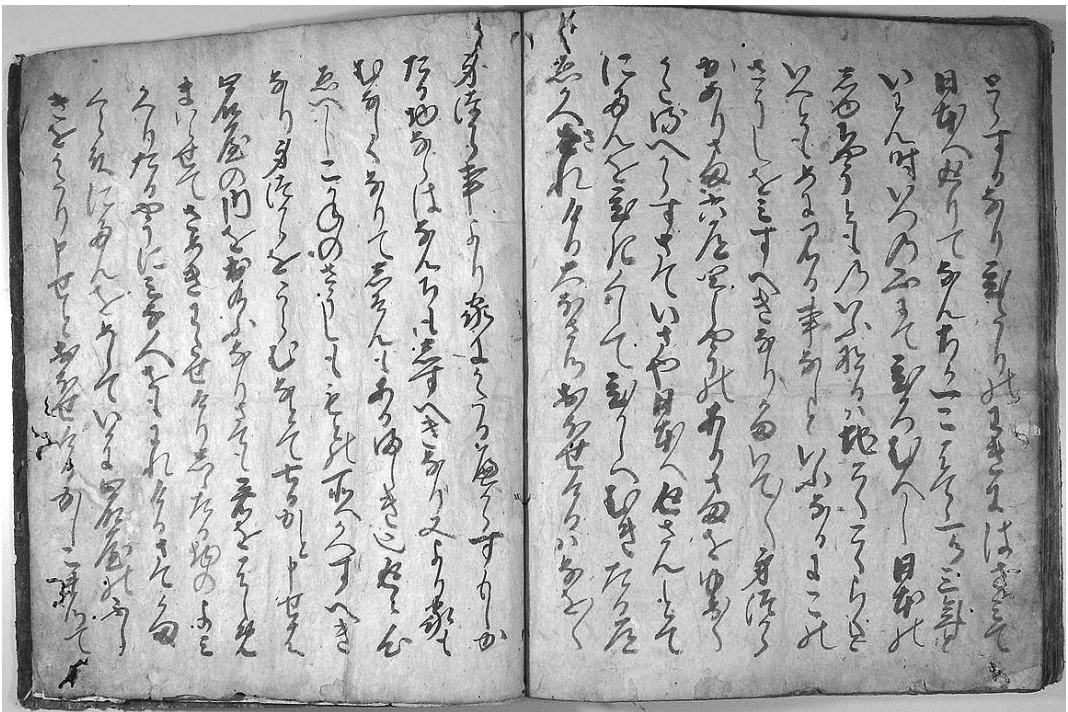
26オ

25ウ



26ウ

27オ



27ウ

28オ



28ウ

29オ

### 解題

当該写本の書誌は次の通りである。

所蔵 鳥取県立博物館（中島家旧蔵）

形態 袋綴一冊

時代 慶長七年（一六〇二年）一月二十三日写

寸法 縦二三・〇センチメートル、横一九・〇センチメートル

表紙 黒色無紋

外題 なし（剥がれか）

内題 なし

料紙 楮紙

行数 一面十行

丁数 墨付二十九丁

当該写本には内題はなく、外題も現状では確認できない。しかしながら、その書写内容から『富士の人穴草子』と認定し、その題とした。

本書は、二丁目の表がすべて欠落している。また、十二丁目には目移りによる重複と思われる錯簡がある。

奥書によれば、当該写本は慶長七年の書写によるものであり、また書体等から考えてもこの時期の書写と考えてよい。『富士の人穴草子』の古写本には、室町後期写本（慶応義塾図書館蔵<sup>(1)</sup>）、慶長八年写本（赤木文庫旧蔵<sup>(2)</sup>）、慶長十二年写本（天理図書館蔵<sup>(3)</sup>）などがあり、これらとはまた別に古活字本・整版本がある。よって、本書は写本として二番目に古く、書写年代がわかるものとしては最も古いものとして認定さ

れる。もちろん、書写年代の古さだけが、その文献学的・書誌学的な価値の基準となるわけではないが、近世中後期の膨大な数の写本を有する『富士の人穴草子』という作品の研究において、当該写本は大きな意味を持ち得るものと考えられる。

当該写本の本文であるが、室町期写本や慶長八年写本、慶長十二年写本と比べてみると、大きな異同を数多く抱えている。これは、異本とまでは言えないまでも、かなりの差異があると認定するに足るものである。こうした本文の大きな異同は、この『富士の人穴草子』が語り物から発展していったと考える根拠になろう。

当該写本は、近年、鳥取県立博物館に寄贈されたが、もとは中島家（鳥取県岩美町大谷）の所蔵であった。中島家は中世の山名氏にルーツを持ち、戦国期には中島正時（慶長十六年没）という武将を輩出している。この正時が中島家の初代に当たる。江戸時代においては、代々岩井郡の大庄屋・宗旨庄屋を歴任し、苗字帯刀を許され、鳥取藩より三人扶持が支給されていた。明治以降も現在まで家は続くが、現在の当主は東京在住とのことである。

このような相応な旧家であることから、この写本も古い時期から中島家で所蔵された可能性が高く、書写された直後に既に中島家に存した可能性もある。七代目中島正之（一七二九～一七九三）作成の『自分所持軍書目録』にこの書名があることから、少なくとも当該時期には中島家に所蔵されていたことが確認できる。写本には擦れや手垢痕が多く見られ、また裏打ちなどの補修がされていることから、かなりの回数で読まれたことが想定される。江戸初期以降の地方の人々の慰めとなったのであろうか。

さて、その中島家が代々過ごした岩美町大谷の住宅であるが、

二〇〇七年十一月に都合により取り壊されている。本来はこの写本も含めて、散逸するはずであったが、地域の方々の御尽力によって取り壊す寸前に救出されたという経緯がある。救出された資料は、近世資料約千五百点、近代資料約千点、蔵書約五百点に及んでいる。蔵書の中には、古活字本の『塵滴問答』、同『弁慶双紙』や多数の近世実録物などがあり、今後の学術的な調査が期待される。

最後になるが、このような中島家資料の救出に関係された方々、またこのような資料の存在を御教示いただいた鳥取県立博物館の大嶋陽一氏に厚く御礼申し上げます。

#### 注

- (1) 石川透「慶應義塾図書館蔵『人あなさうし』解題・翻刻」『三田國文』二十六号参照。
- (2) 『室町時代物語大成』角川書店・第十一に翻刻がある。
- (3) 『室町時代物語集』井上書房・第二に翻刻がある。

〔付記〕 本稿は、山陰研究センターの山陰研究プロジェクト「山陰地域古典文学資料の公開に関するプロジェクト」(研究代表者・蘆田耕一)による成果の一部である。

# “Fujinohitoana-Zôshi” owned by the Tottori Prefectural Museum : reprint and introduction

HARA Toyoji

(Yonago National College of Technology)

## [ Abstract ]

"*Fujinohitoana-Zôshi*" owned by the Tottori Prefectural Museum is one of the oldest book, which was made in 1602. This is reprinting the book and showing the bibliography.

Keywords : "Fujinohitoana-Zôshi", The Tottori Prefectural Museum, the Nakajimas, Otogi-Zôshi,  
a novel of Middle Age